

## ⑥ 伊熊神社社叢

い くま じん じゃ しゃ そう

所在地：豊田市伊熊町

昭和52年4月22日指定

—モミ・カシの針広混交林の天然林—

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
2.63	2.12	4.75

伊熊神社は、豊田市旭地区の南部に位置し、標高563mの山頂にあります。

三河地方の山林はスギ・ヒノキの植林がすすみ、殆どが人工林となっています。

しかし、信仰の対象である社寺林は人手を加えることがなかったため、自然の状態が良く保たれています。伊熊神社社叢もその一つで、この地域の潜在植生を知る手がかりとなる貴重なものとなっています。

伊熊神社社殿の周辺の林は、高木層に常緑広葉樹のシラカシ、アラカシなどカシ類の暖帯生植生に混じって、針葉樹のモミや落葉広葉樹のイヌシデ、コアサダ、ウワミズクラなど温帯生植生も見られます。

また、亜高木層にはユズリハ、カゴノキなど暖帯生の常緑樹が見られます。また、ビナンカズラなど暖帯性のつる植物も見られます。

このように、この地域の代表的な植生であるモミ・カシ類を主とした暖帯、温帯の植生を併せ持つ針広混交林となっています。

また、陸貝ではツムガタモドキギセル、ミカワギセルなどが見られます。



- 1：お社とモミ
- 2：針広混交林
- 3：コアサダ
- 4：モミジガサ
- 5：全景

## ⑦ 小堤西池

こ つつみ にし いけ

所在地：刈谷市井ヶ谷町小堤西1

昭和53年3月24日指定

—自生のカキツバタ群落が見られる池—

面積 (ha)

特別地区 (全域)
5.83

小堤西池は、刈谷市最北部、丘陵部のふもとにある水田かんがい用の池です。

かつて、この地方の池や湿地に自生していた水生や湿性の植物が残っています。

小堤西池はカキツバタの自生地として昭和13年に国の天然記念物に指定されています。他には京都府、鳥取県にもありますが、この地の群落が最も規模が大きいものです。

カキツバタは小堤西池を代表する植物で、中部より北の地域で池沼の岸辺や湿地に育成していましたが、開発により姿を消し、野生のものは殆ど残っていません。この地は、県内では数少ない自生地の一つとなっています。

なお、小堤西池は、池の底に堆積した花粉の分析結果から、約6,300年前から池沼的な環境にあったと考えられるという研究報告があります。



- 1：全景
- 2：天然記念物
- 3：湿地
- 4：カキツバタ
- 5：ワレモコウ

1, 4刈谷市教育委員会